

町田市における事前都市復興の考え方～事前都市復興基本方針～（案）

市民意見募集実施結果

2024年2月

町田市都市づくり部都市政策課



「町田市における事前都市復興の考え方～事前都市復興基本方針～（案）」の策定に係る市民意見募集実施概要

2024年1月に公表した「町田市における事前都市復興の考え方～事前都市復興基本方針～（案）」について、市民の皆さまのご意見を募集しました。

1 意見の募集期間

2024年1月4日（木）～2024年1月31日（水）

2 意見募集の方法

◆以下の施設での資料閲覧・配布

都市政策課（市庁舎8階）、市政情報課（市庁舎1階）、広聴課（市庁舎1階）、各市民センター（忠生、鶴川、南、なるせ駅前、塚、小山）、各連絡所（町田駅前、木曽山崎駅前、玉川学園駅前、鶴川駅前）、男女平等推進センター（市民フォーラム3階）、生涯学習センター、各市立図書館（中央、さるびあ、鶴川、鶴川駅前、金森、木曽山崎、忠生、塚）、町田市民文学館

◆町田市ホームページに資料を掲載

◆「広報まちだ」（2024年1月1日号）に概要を掲載

3 寄せられたご意見の件数・内訳

電子メールを通じて、4名の方から、7件のご意見をいただきました。ご意見の項目別の内訳は以下のとおりです。（おひとりから複数の主旨のご意見をいただいた場合は、趣旨ごとに分割して集計しています。）

**【ご意見件数】**

ご意見の対象（項目）	意見No. (掲載ページ)	件数
① 第5章 都市復興のプロセス に関すること	No.1 (P5)	1 件
② 第6章 平時の備え に関すること	No.2～4 (P5～P6)	3 件
③ 防災都市づくりに関すること	No.5～7 (P6～P7)	3 件
合 計	No.1～7 (P5～P7)	7 件

**【ご意見の概要とそれに対する市の考え方】**

お寄せいただいたご意見に対して個人情報を除き原文のまま掲載しています。

※市の考え方に対する書面、電話、窓口等での回答は致しません。

① 第5章 都市復興のプロセス に関すること（1件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
1	<p>○&lt;都市復興の体制イメージ&gt;                      NPO、ボランティア、専門家、企業等の関わり方について 図によれば、「公助」へのみの連携となっているが、「自助」「共助」への、より密接な連携（サポート）も大変重要だと考える。                      諸団体の種類性格にもよろうが、「自助」「共助」「公助」を有効に結びつける役割といえようか。</p>	<p>ご指摘の通り、「自助」「共助」による復興にもNPO、ボランティア、専門家、企業等の密接な連携が求められると考えます。                      ご意見を参考に文言を修正します。</p>

② 第6章 平時の備え に関すること（3件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
2	<p>事前都市復興の基本計画を確認しました                      このなかには復興にあたって事前対策・復興の具体的計画などあると思います                      事前対策では、現在の道路含めた都市基盤の防災面での点検と対策事項を把握する                      具体的計画では、事前に把握した対策事項を行政・市民で共有し実施に当たる                      その上必要なのは市民団体（例えば顧問建築家機構・建築士事務所協会など）との協働が必要                      また、そのような市民団体等が地域コミュニティに協力して                      行政当局の支援の元対策と具体的計画を作ることが大切と考えます</p>	<p>今後の事前都市復興の取組にあたっては、各種団体との連携を図り、あらかじめ地区の課題を共有していくとともに、被災時も含めた協力体制の構築に努めてまいります。</p>
3	<p>◎建物単体の耐震・耐火性能を上げ、暮らしの面でも、現在ある地域資源の強化を進めることが大切だと思います。町田市は、市民活動が活発と言われてきたように思いますが、活動を担う人材の高齢化もあります。                      若い人の活動への参加も大事ですが、今ある地域での様々な活動に対し、市民協働推進課や社協、高齢者支援センター、障がい者支援センターを軸に、地域で地域の活性化やまちづくりを行っている団体などを平時でも、災害発生時でも、すぐに活動ができるように、日常の自助・共助の活動の継続を支えるのが公助の役割だと思います。ご検討ください。</p>	<p>今後は多様な世代や各種団体に対して、事前都市復興の活動支援を行ってまいります。</p>

4	<p>○「防災活動」からの発展と両立 自治会等が担っているであろう、緊急避難訓練等が下火になっていると感じている。</p> <p>防災活動と被災後の復興（過程）のイメージづくりは常にセットとして考えたい。</p> <p>自治会は、「防災活動」に関してはそれなりの心構えがあろうとは感じるが、復興迄主体的に動くイメージはそれほどもっていないのではないか。</p> <p>（自治会の活動は、地域によるバラツキが大きい）</p> <p>「地域復興協議会」を防災に続く活動として普段からイメージしておくことが大切と感じる。</p> <p>大きな災害で始まった2024年、記憶が鮮明なうちに、防災＋復興の市民それぞれのイメージづくりのあらためての出発点とするべきと考える。</p> <p>我々のNPO法人も、木造住宅耐震化促進（自助）とセットで考えていきたい。</p>	<p>地区の既存の活動の発展として、事前都市復興についても関心を深めていただき、新たな取組につながるよう、活動支援を行ってまいります。</p>
---	---	---

③ 防災都市づくりに関すること（3件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
5	<p>町田市における事前都市復興の考え方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本は、発災時に被害を少なくすることが平時に求められます。おっしゃる通りと思います。</li> <li>・平時にしておくべきこと。</li> </ul> <p>◎現在抱えている弱点をピックアップして復興後の姿(都市計画マスタープラン)に近づける。</p> <p>例ア：予め耐震・耐火性能を確保する（2000年基準以上の耐震、耐火性能とする）</p> <p>小川3丁目、5丁目、金森3丁目、4丁目、玉川学園3丁目、4丁目、7丁目、8丁目など</p> <p>→必要ならば、防火地域あるいは準防火地域(新防火地区?)指定を行い、耐震・耐火性能に於いて現行基準をクリアすべき地区とし、国・都・市の補助制度を準備する。(以下同様とする)</p> <p>空き家においては、解体費補助の活用等でモチベーションを高める。又は、国の新築助成など周知する(復興にかかる費用よりも安くなると思われます)</p> <p>例イ：予め地域危険度を下げる</p>	<p>地区ごとの課題や災害リスクを適切に把握し、引き続き防災都市づくりを進めてまいります。</p>

	<p>森野 3 丁目 ランク 3→ランク 1 に下げる（建物密度を下げ、耐火性を高くする又は延焼のおそれを低くするため、道路幅を広げたり公園を確保する＝都市計画）</p> <p>例ウ：予め災害時活動困難係数を下げる 真光寺町、玉川学園 2 丁目等（都市基盤整備を行う：道路幅員確保、公園・空地等の公共空間を確保する（空き家改善含む））</p> <p>例エ：液状化被害を少なくする（密度を高め、液状化抵抗を増すなどいくつかの実験結果があるようです）森野 1・2 丁目、金森 7 丁目、金井 3・5 丁目</p>	
6	<p>◎給水管・排水管・ガス管等の耐震性能を上げるとは現在も行われていると思いますが、ライフラインが機能しなくなれば、自立型のトイレの研究や試験的な設置、洗面・入浴などの上水の小さい単位での確保の方法など研究や試験的な設置を検討する等、小公園単位での設置など順位付けしながら、町田市の省エネを測りながらの強靱化を進めて頂きたいと思います。</p>	<p>ご意見を今後の検討の参考にさせていただきます、都市の強靱化に向けて、引き続き防災都市づくりを進めてまいります。</p>
7	<p>「市街地上空を通過する高圧送電線の地下埋設化」</p> <p>町田市内では、特に中心部の住宅密集地域なども含め、各所に高圧送電線が設置されています。これは、過去の我国での大地震で前例のある通り、大きな災害をもたらす危険があります。</p> <p>先進の欧米諸国では、100 年以前から市街地上空に高圧線を見ることはありませんでした。地下埋設を進めるには、1 日で早い方が工事は容易であり、それだけ経費も少なくてすむはずで。早急にご検討をお願いしたく存じます。</p>	<p>ご意見を今後の検討の参考にさせていただきます、被害の軽減に向けて、引き続き防災都市づくりを進めてまいります。</p>